

# 岐阜県病院事業経営健全化計画(平成19年度～平成23年度)の進捗状況について

平成20年度病院事業会計決算確定時点において進捗状況を点検しました。その結果を公表します。

(点検した4つの項目)

地方債現在高	:	年度末における地方債の未償還残高の額です。
職員数	:	年度末における正職員の人数です。
改善額	:	経営改善により生み出した収入増や支出減を合算した額です。
累積欠損金比率	:	累積欠損金と営業収益の比率です。

岐阜県立病院は、平成22年4月1日から地方独立行政法人となりますが、本書における22年度以降の数値は、目標設定時の会計基準(地方公営企業法)に準拠しています。

## 地方債現在高

地方債現在高については、新規起債の抑制等により、目標値以下に抑えることが出来ました。今後も、目標を達成できる見込です。

( )推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	28,293	29,423	28,363	28,575	24,792	25,760
実績(見込)値(B)	27,640	27,042	27,882	28,094	24,311	
乖離値(C) (A - B)	653	2,381	481	481	481	1,449
乖離率(D) (B / A)	2.3%	8.1%	1.7%	1.7%	1.9%	5.6%

## 職員数

職員数については、目標値以下に抑えることが出来ました。

今後も、目標を達成できる見込です。

ただし、不足を来さないようにする必要がありますので、必要人数の充足に努めていきます。

( )推移表

(単位:名)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)
計画目標値(A)	1,654	1,752	1,754	1,778	1,786
実績(見込)値(B)	1,630	1,648	1,754	1,778	1,786
乖離値(C) (A - B)	24.0	104.0	0.0	0.0	0.0
乖離率(D) (C / A)	1.5%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%

## 改善額

改善額については、診療収入の伸び悩みによって、目標値を達成できませんでした。

しかし、平成21年度は診療収入が増加しつつあるので、今後は目標を達成できる見込です。

### ( )推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	改善額合計	補償金免除額
計画目標値(A)	35	1,145	1,259	934	928	4,301	627
実績(見込)値(B)	715	638	1,997	1,672	1,666	6,688	
乖離値(C) (B - A)	680.0	507.0	738.0	738.0	738.0	2387.0	6061.0
乖離率(D) (C / A)	1942.9%	-44.3%	58.6%	79.0%	79.5%	55.5%	966.7%

### ( )要因分析

改善額合計の 未達成の要因	影響額(単位:百万円)					合計	備考
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
診療収入の減少		1,024				1,024	
時間外勤務手当の増加		178	178	178	178	712	
合計		1,202	178	178	178	1,736	

### ( )実績(見込)値が計画目標値に届かない理由

#### 【診療収入の減少】

##### (総合医療センター)

(入院)・患者数・診療単価ともに前年度を上回ったが、いずれも目標には届かなかった。780百万円の目標割れとなった。入院収益が目標を下回った理由は、計画策定当時は、20年度中にDPC算定病院となることを想定していたが、実現が21年4月まで遅れた影響が大きい。

(外来)・患者数は減少したが診療単価の増加により増収となった。目標も上回った。

##### (多治見病院)

(入院/外来)・患者数は減少したが診療単価の増加により増収となった。目標も上回った。

##### (下呂温泉病院)

(入院/外来)・診療単価は増加したが患者数が大きく減少したため減収となった。目標も大きく下回った。患者減少の理由は、医師不足により患者が減少したことによる。

#### 【勤務体制の見直し】

・労働基準監督署の指導により、夜間の救急対応は宿日直業務では無く時間外勤務として取り扱うこととなり、平成19年度から20年度にかけて勤務体制を見直した。そのために、構造的に時間外勤務手当が増加することとなった。

### ( )改善に向けた取組み及び今後の見通し

#### 【診療収入の増加】・診療収入は、患者数の維持と診療単価の増により目標水準への回復に取り組む。

##### (総合医療センター)

・H21年4月～6月の3ヶ月間で、対前年比271百万円(通年ベースでは1,080百万円)料金収入が増加しており、計画策定時の目標を530百万円上回る見込みである。平成21年4月からDPC算定病院となったことや、H20年9月から地域医療支援病院の認定を受けたことが増収に貢献している。

##### (多治見病院)

・H21年4月～6月の3ヶ月間で、対前年比137百万円(通年ベースでは548百万円)料金収入が増加しており、計画策定時の目標を459百万円上回る見込みである。平成21年4月からDPC算定病院となったことが増収に貢献しており、H21年9月に地域医療支援病院の認定を受けたことにより、一層の増収を期待できる。

##### (下呂温泉病院)

・H20年度は医師不足により収入が大きく落ち込んだ。H21年4月～6月の3ヶ月間の診療収入は微増に止まっているが、収支では82百万円(通年ベースでは328百万円)改善している。今後の医師確保にあわせて、収入が増加する予定であり、H21年度以降は計画策定時の目標を達成することを見込む。

・下呂温泉病院の医師確保対策としては、岐阜大学の寄附講座と連携して「地域医療研究研修センター」を設置しており、教官や臨床研修医が常時数名在院し、研究や研修の傍ら臨床を行っている。また、岐阜県南部地域では医師数が増加傾向にある(総合医療センターは増加基調、多治見病院はH18年度の水準まで回復)ため、今後中山間地域の病院の医師確保も好転する見込み。

## 累積欠損金比率

累積欠損金比率については、主に診療収入の伸び悩みや多額の臨時的経費の発生によって、目標値を達成できませんでした。

しかし、平成21年度は診療収入が増加しつつあるので、今後は目標を達成できる見込です。

### ( )推移表

(単位:%)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	14.2	17.7	25.8	33.2	40.6	4.0
実績(見込)値(B)	11.6	20.6	24.5	29.2	33.7	
乖離値(C) (A - B)	2.6	2.9	1.3	4.0	6.9	29.7
乖離率(D) (C / A)	18.3%	-16.4%	5.0%	12.0%	17.0%	-742.5%

岐阜県立病院では、平成18年度から21年度にかけて大規模な病棟の竣工が続き、減価償却費等により累積欠損金の増加が見込まれます。

本計画は、当面の赤字構造を前提として策定されています。

### ( )要因分析

(単位:百万円、%)

	計画最終年度(平成23年度)	
	計画目標値算出時(A)	実績見込値算出時(B)
分母(営業収益等)	30,405	31,394
分子(累積欠損金)	12,334	10,586
累積欠損金比率	40.6	33.7

### ( )実績(見込)値が計画目標値に届かない理由

「改善額」の項目中「( )実績(見込)値が計画目標値に届かない理由」に同じ

### ( )改善に向けた取組み及び今後の見通し

「改善額」の項目中「( )改善に向けた取組み及び今後の見通し」に同じ